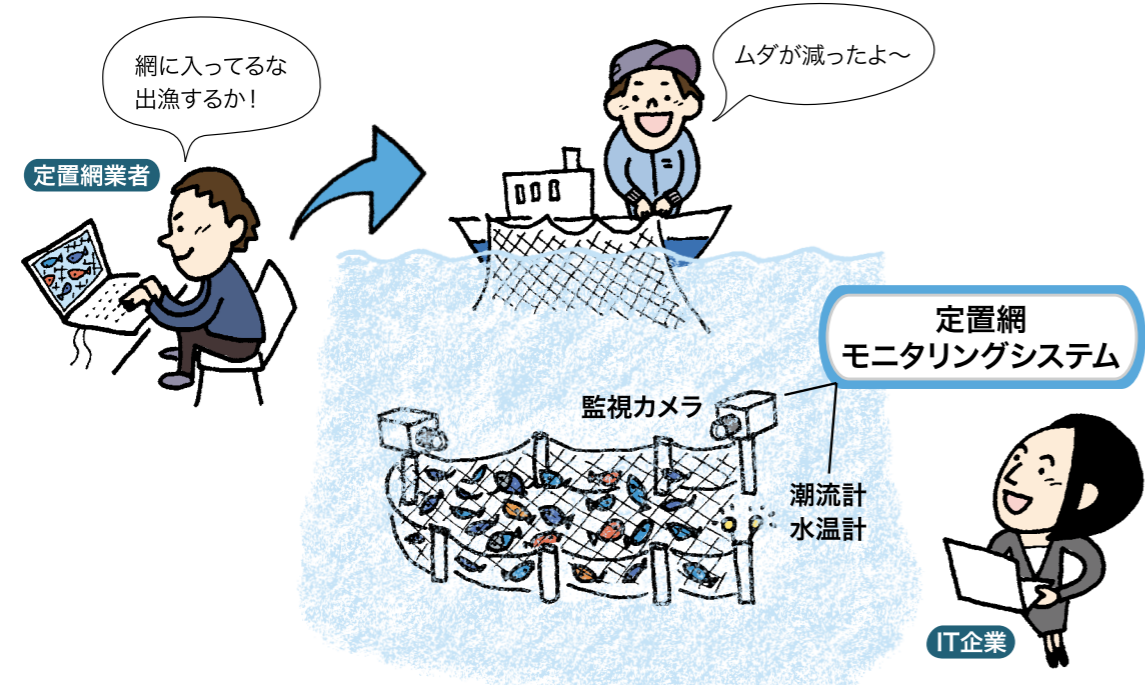


ITを活用した定置網漁業の効率化



- 漁獲状況を陸上で確認し効率的な漁業を実現
- 漁獲状況の早期確認で効果的な販売を実現
- 潮流予測により定置網の流出危険性を察知



シナリオ

- 定置網漁は、一定の場所に網を設置して、毎日「網起こし」を行い、滞留させた魚を取り上げる漁法である。
- 「網起こし」の結果、漁獲が無い場合や少ない場合は、費用（燃料代、人件費等）が売上げを上回り、赤字になることがある。
- また、急なシケなど、強い潮流によっては、網が流されてしまい、多額の損失を被ることもある。
- そこで、定置網漁の効率化を目指す漁業者が、IT企業と連携し、定置網モニタリングシステムの開発を行うこととなった。
- 同システムは、定置網に監視カメラ、潮流計・水温計を設置することで、陸上で、漁獲状況のモニタリングができる。また、潮流変化の計測により網の流出危険性を察知することもできる。

役割

漁業者

- 定置網漁に関する経験・ノウハウを活かし、潮流・水温の変化と漁獲・魚網流出の関係を分析し、システムの仕様決定に参画する。

IT企業

- IT技術を活かし、漁業者と共同でシステムの仕様を検討し、開発に取り組む。

効果

漁業者

- 出漁コスト（燃料代、人件費等）に見合った漁獲状況の確認が、陸上において可能となるため、生産効率の良い漁業の実現が図れる。
- 設置したカメラによって、魚種や漁獲量等の漁獲状況をあらかじめ把握できるため、効果的な販売が可能となり、売上げの向上につながる。
- 共同開発したことによるロイヤリティ収入により、事業全体の収益が向上する。

IT企業

- 新たなシステムの開発により、売上げが向上する。
- 水産分野への進出を実現することにより、顧客層の拡大を図ることができ、今後の事業拡大が期待できる。

Column

定置網漁業の効率化

- 最近の趨勢として魚価は低迷しており、定置網漁業の効率化は大きな課題である。ある調査では、一回の定置網漁での漁価総額に対し、人件費と氷代合計で4割程度という結果が報告されており、無駄な「網起こし」作業をしないことによる人件費、氷代の節約は経営改善に有効である。